

# 2020年度(令和2年度)学校評価自己評価表

城北中学校区	校番 63	福山市立明王台小学校
	最終更新日	2021年(令和3年)2月1日

## I 福山市

**ミッション** 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。  
**ビジョン** 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

## II 中学校区

<b>前年度学校関係者評価の主な内容</b> 学校関係者評価報告書は全項目「十分満足できる」と評価された。中学校区で連携を深め、共通の取組で成果をあげている。各校の目標が達成できていないものについては、取組の進捗状況を細かく把握し、課題克服に向けてPDCAサイクルに則り実践する。	<b>児童生徒の現状</b> 全国学力・学習状況調査の結果、小学校は県平均を概ね上回り、中学校は県平均程度となっている。また、校区共通で取り組んだことで、「あいさつ」、「地域行事参加」などの意欲は向上してきている。睡眠時間、学習時間の確保が課題である。	<b>育成する力</b> 21世紀型“スキル&倫理観” <b>めざす子ども像</b> (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	<b>知識・技能</b> 思考力・判断力・表現力 主体性に学ぶ力 他者とのかかわる力 社会貢献力 自己形成力 自ら考え、判断し、行動する児童・生徒 ・校区合同研修における、授業研究および教科等部会の取組 ・ICTを活用した授業実践および協議・交流の取組 ・基本的な生活習慣や家庭学習の目安を示した校区スタンダードの取組 ・合同行事・乗り入れ授業・「総合的な学習の時間」交流会の取組
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## III 自校

<b>ミッション</b> 夢を持ち その夢を実現することを通して 社会に貢献できる 児童の育成	<b>育成する力</b> 21世紀型“スキル&倫理観”	<b>主体的に学ぶ力</b>	<b>思考力</b>	<b>表現力</b>	<b>他者と関わる力</b>
<b>学校教育目標</b> 自ら学び 豊かな心で たくましく生きる子どもの育成	<b>めざす子ども像</b>	生活体験や既習事項を基に、調べたり考えたりするなど、継続して新たな課題を見つけようとしている。	より良い解決に向け、目的や意図に心懸けて論理的に考えようとしている。	必要な情報を整理し、論理的に話したり書いたりするなどして、自分の考えを表現しようとしている。	初めて出会う考えにも耳を傾け、目標達成に向けて、共感しながら互いに学び合おうとしている。
<b>現状</b> <児童生徒> ・標準学力調査では、全国平均を上回った。 ・学校のルールを守る児童が増加し規範意識が高まった。 ・「無言掃除」「地域行事への参加」等、主体的に考え行動できる力を高めていく必要がある。 <授業> ・「授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫している」児童の割合(「基礎・基本」定着状況調査アンケート)が、77.8%(県66.6%)である。今後も自分の考えをまとめて書くこと、考えを練り合い深めていくことに継続して取り組んでいく必要がある。	<b>研究</b>	<b>教科等</b> 社会科 外国語活動	<b>主題・内容等</b> ともに考え 学び合う授業の創造 ～J(じっくり考える)H(はっきり表現する)K(くり返し挑戦する)を踏まえて～	<b>めざす授業の姿</b>	① 自ら課題を発見し、課題解決をしている。㊦ ② 自分の考えを整理したりまとめたりして、それをもとにして協議して解決している。㊦㊦ ③ グループやペア等の活動を通して他者と関わり合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。㊦

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立明王台小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	加減評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	加減評価	達成評価	総合評価	改善方策
1	自ら考え学ぶ児童(主体性)の育成	★	新規	基礎・基本の学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>・帯タイム(スキルタイム)で、漢字・ことば・計算問題に取り組む。</li> <li>・自ら課題を見つけて学習に主体的に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語、算数の単元テストの通過率を、知識・技能90%、思考・表現80%以上にする。</li> <li>・「プリントを自分で選択して、学習に進んで取り組む」児童を90%以上にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語…知識・技能87.3%、思考・判断・表現90.4%、算数…知識・技能90.0%、思考・判断・表現82.4%</li> <li>・「プリントを自分で選択して、学習に進んで取り組む」児童は96.4%</li> </ul>	3	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の意味理解ができていなかったため、教科書だけではなく、言葉のきまりを併用しながら理解させる。理解が難しいところは、別途プリントを出し、反復練習させる。</li> <li>・授業の思考の際、自分の考えをノートに書かせたり、黒板に思考ができるようにヒントになる順序を書いたりする。</li> <li>・低学年は問題数、高学年は課題に応じたプリントを選択できるなど、学年の実態に応じて取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□計画的に、帯タイムを行ったが、内容については精査が必要。</li> <li>◎国語…知識・技能89.9%、思考・判断・表現89.5%、算数…知識・技能89.9%、思考・判断・表現79.3%</li> <li>□進んでプリント選択ができるように、準備をした。</li> <li>◎「プリントを自分で選択して、学習に進んで取り組む」児童は92.7%</li> </ul>	3	4	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、理解が難しいところについては、別途プリントを出し、反復練習させる。</li> <li>・テストやプリントで何に躓いたのかを自己分析させ、自主勉強でもう一度復習させる。</li> <li>・授業の思考の際、自分の考えをノートに書かせたり、キーワードを板書したりして、児童が考えるヒントにする。</li> <li>・児童の実態が自分にあったプリントを選択できるように、声かけをする。</li> </ul>
				進んで掃除をすることができる児童にする。	縦割りの班掃除を実施する。 (振り返りカード)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プラス1掃除ができる児童を90%以上にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケートで「プラス1掃除ができた。」という児童が91.6%で目標値を達成した。しかし、プラス1掃除の中身の向上が課題である。</li> </ul>	3	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縦割りの掃除を2学期は実施し、高学年の自覚を促すとともに、低学年にプラス1掃除で何ができるかを高学年に指導してもらおう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□縦割り掃除を実施する中で、プラス1掃除を高学年から教えてもらい、普段の掃除でも意識して行うことにつながった。</li> <li>◎児童アンケートで98.2%であった。</li> </ul>	4	5	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縦割り掃除で教えてもらったプラス1掃除などを元に、各学級でどんなプラス1掃除ができるかを話し合い、学年末にはアンケートで「プラス1掃除ができた。」が100%になるようにする。</li> </ul>
				自ら生活目標を守ることができる児童にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童会が課題を見つけ生活目標を設定する。守り方は、各クラスで話し合っ決めて。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校区スタンダードのアンケートを活用して児童にアンケートをとり「目標に自ら取り組めた」児童を、</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケートで「目標に自ら取り組めた」児童が88.0%であった。目標値に届かず、取り組んでいると</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童会の生活目標を達成できているかを表など「見える化」して学級や個人で達成感を感じられる取組を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□児童会が考えた生活目標を達成したらシールを貼る取り組みや、給食の時間に目標が達成できたかを放送する取組など「見える化」した</li> </ul>	4	5	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活目標を達成できているかを「見える化」する取組を継続しつつ、学校生活の多様な場面でもめあてとふりか</li> </ul>

					90%以上にする。	いう実感を児童に持たせきれなかった。			そのことで「取り組んだ」という実感を持たせる。	取り組みがよかった。 ◎児童アンケートで「自ら目標に取り組めた」児童が92.1%であった。				えりを自分で持てるようにしていく。
		新規	目標を持って体力づくりができる児童にする。	・サーキットトレーニングにおける個人目標を設定し、課題改善に主体的に取り組ませる。	・児童アンケートの肯定的評価「サーキットで自分が伸ばしたい種目に一生懸命取り組んだ」児童を100%、「取り組んだ結果、伸ばしたい種目の記録が伸びた」児童を80%以上にする。	・児童アンケートで「サーキットトレーニングで自分が伸ばしたい種目に一生懸命取り組めた」児童が90.4%であった。	3	3	・達成目標(自分のなりたい姿)を明確に設定し、引き続き体育の時間を中心に目標達成に向けて取り組みさせる。授業の初めには必ずサーキット運動を一通りやり、その後自分の頑張りたい種目に再度取り組んでから授業を始める。	□自己のめあてを意識させたサーキット運動ができた。 ◎「自分が伸ばしたい種目に一生懸命取り組めた」児童は5%アップし95.1%であったが、100%を達成することはできなかった。 ◎自分が決めた種目の記録が伸びた児童は93.3%になり80%を上回った。	4	4	4	・一生懸命取り組めなかったと答えた児童には個別の声をかけをし、できているところを認め、自信を持たせる。
1	教員の資質・能力の向上	★ 新規	自ら考え学ぶ授業を創造する。	・つきたい力を明確にした授業実践を行い、協議を行う。 ・ICTを活用し、児童が興味をもって取り組む授業を実践する。	・各学年、単元計画を立て授業実践する。(研究授業年2回以上) ・児童アンケートで「授業で考えることが面白い」を85%以上にする。	・各学年、単元計画を立て、授業実践を行った。(現在まで100%) ・児童アンケートで「授業で考えることが面白い」78.4%	3	2	・単元の中で、ICTを活用する場面を明確に位置付ける。 ・単元のゴールを示し、学習後に教師が成功体験を評価する。	□◎各学年、単元計画を立て、授業実践を行った。 □授業の振り返りを意識して、授業を行った。 ◎児童アンケートで「授業で考えることが面白い」81.7%	3	4	4	・単元の中で、ICTを活用する教科を増やす。 ・授業で思考したことを、実生活に活用できるような場の設定をする。
1	地域に貢献する学校	新規	地域とつながる教育活動を行う。	・積極的に地域のことを知り、関わろうとすることができ児童にする。	・児童アンケートで(9月に実施)「地域のこと好きである。」を85%にする。	・児童アンケートで「地域のこと好きである。」児童が94%で目標値を達成した。今後も地域のことを様々な場面で知らせていく。	3	3	・地域の行事などを積極的に知らせたり、地域のよさを学習の中で取り上げたりして良さを伝えていくようにする。	□地域人材を活用し、授業に取り入れた。 ◎児童アンケートで「地域のこと好きである。」児童が93.3%であった。	4	4	5	・地域の方と交流したり、感謝の思いを伝えたりすることができる場を設定したりする。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。